

令和 三 年度

四天王寺東高等学校入学試験問題

国 語

注意 答はすべて解答用紙に書きなさい。
句読点も一字に数えます。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、ここで考えるのは、死に直結するわけでもないのに、どうして、我々の多くは孤独をそれほどまで怖れるのか、という問題である。この傾向は、特に若者に多い。やはり、社会全体をまだ知らない、社会と自分の関係も不明瞭だ、という時期に抱く孤独感、無視できないほど本人に影響を与えることがある。実は、本書を書こうと思ったのも、できれば、その得体の知れない孤独感のようなものを、少しでも a ヤワらげることができないか、と思ったからだ。すなわち、僕は、そういった孤独感が、主として外界の観察不足と本人の不自由な思考から生じるものだと感じていて、「①」を取り除くことと、少し「②」ことが、危機的な孤独からの脱出の鍵になると考えているからである。

たしかに、寂しさは、自身の状態としてマイナスである。気持ちの良いものではない。長く続くと、だんだん自分の存在自体が嫌なものに思えてくる。こんな状態が今後も長く続くのなら死んだ方がまだ、と考えるのも不自然ではない。その悲観的な予測自体は、間違いとはいえないからだ。

ただ、そのまえに、やはり「寂しさ」が何故いけないことなのか、を考えてみよう。どうして、こんなに嫌なものに感じてしまうのか、ということだ。それは、絶対的な地獄の苦しみのだろうか？

こういった場合に、「嫌なものは嫌なんだからしかたがない」と言う人が多い。これは、b テンケイ的な「思考停止」であって、その症状の方が、寂しさや孤独よりもずっと危険な状態だと思われる。思考しなかったら、つまりは人間ではない。人間というのは、考えるから人間なのだ。したがって、考えることを放棄してしまったら、それこそ救いようがない、という状態になってしまう。

知らず知らずのうちに、考えるのは面倒だから、考えない方が楽だから、とずるをするようになってしまう。まずは、③この姿勢を改める意味でも、簡単なことから考えてみることをおすすめしたい。

寂しいと、どんな悪いことが貴方^{あなた}に起こるのか？

寂しいと泣けてくる、寂しいとなにもしたくなくなる、寂しいと体調も悪くなる、というようにいろいろなマイナス現象が人によって生じると思う。逆に、楽しいと、うきうきして何事にも積極的になれ、重かった^{からだ}躰も軽く感じられ、体調も良くなる。

これらは、現象として観察されることだ。なかには、涙が出ることが寂しいこと、やる気がなくなることが寂しいことだ、というように定義をしよう人もいるだろう。

A、よくよく考えてみると、やはり、寂しいことが悪いことだという先入観があるから、いろいろなマイナスが表面化するのではないか。多くの人が単に思い込みだけで「寂しさ」を必要以上に悪く捉えているように、僕には見える。

④「じゃあ、寂しいと良いことがある？」そう尋ねる人もたぶんいるだろう。

それが、実はある。いろいろな面で、そういうことが実際にある。わかりやすい話をまずすると、「賑やか」なのは良いこと、その反対の「寂しい」のは悪いこと、というように一般に捉えられているけれど、この場合の「寂しい」というのは、「静かで落ち着いた状態」というふうにも言い換えられる。パーティなどは賑やかだが、茶室の中は静かだ。日本古来の「cデントウ美」には、「わび、さび」の精神があることはご存じだろう。これは、つまり「侘しい」こと、「寂しい」ことだ。

自然の中、山奥へ足を踏み入れると、そこには都会にはない静けさがある。これは「寂しさ」以外のなものでもない。こういった環境が、人間にとってマイナスだとはけつていけないはずだ。 B、そういった「静けさ」がとても大事な場面がある。たとえば、ものを考えるときには、「賑やかさ」は煩くて dジャマになるだけだ。数学の問題を解くときには、周りで友達たちが楽しそうに騒いでいる場所は、明らかにマイナスではないか。

なかには、「寂しい」といろいろ考えてしまつて余計に憂鬱になる」と言う人もいる。この言葉が示しているのは、「賑やかなところではなにも考えなくても良い」という点である。もしかして、人は思考停止を本能的に望んでいるのだろうか、と思えるほどである。

考えることが苦痛だ、と感じる人には、寂しさはたしかにマイナスかもしれない。寂しさのプラス面が活用できない、ということになるからだ。では、音楽を聴くときはどうだろうか。自分の好きな音楽をじっくり聴きたいときには、周りは静かな方が良いのでは？

音楽を eシンケンに聴くという「精神集中」は、実は思考に近いものだと思つている。同様に、読書に浸る、絵を描くことに没頭する、というのも思考に近い。これらに共通しているのは、「個人の活動」であつて、静かな環境が相応しい。大勢の中にあつては、気が散つてしまい、やりにくくなる。

このように少し考えるだけで、寂しさや孤独が、実は人間にとって非常に大事なものだということがわかつてくるはずだ。〔中略〕

もう一度話を戻して、何故そこまで「寂しさ」を遠ざけようとするのか、と考えてみると、次に思い浮かぶのは、そう「思い込まされている」という点である。

おそらく、人間が持っている本能的な感覚を利用してあるものと思われるが、多くのエンタテインメントでは、仲間の大切さを誇大に扱う傾向があるし、またそれに伴つて、孤独が非常に苦しいものだという感覚を、受け手に植えつけているように観察される。ドラマやアニメでも、そういった演出が過剰に繰り返される。これは、 C 「家族愛」などでも同様で、そういった種類の「感動」は、作り手にとっては技術的に簡単であり、また受け手も生理的に受けつけないというものではない。このため、みんなが利用する結果となり、社会に広く出回る。この ⑤ ① さえ入れておけばまちがいない、という定番になっているのだ。

TVも映画もアニメも小説も漫画も、この安易な「感動」で受けようとする。穿つた

見方をすれば、安物の感動である。そういったもので現代社会は溢れ返っているように僕には見える。愛する人が死ねば悲しい、でも、その寂しさから救ってくれるのはやはり仲間だ、というありきたりの「感動」がいかに多いことか。受け手も、そういった類型を繰り返し見せられれば、条件反射的に自然に涙が流れるようになるだろう。人が死ぬ場面や、泣き叫ぶ場面、親子や恋人が引き離される場面で、涙が出るのは自然である。ただし、涙が出るのが、すなわち「感動」ではない。よく、「⑥号泣もの」だと作品の宣伝をすることがあるが、泣くことができれば優れた作品だという評価が、完全に間違っている。人を泣かせることなど、誰にでもできる。それは「暴力」に似た外力であつて、叩かれれば痛いと感じるのと同じ単純な反応なのだ。

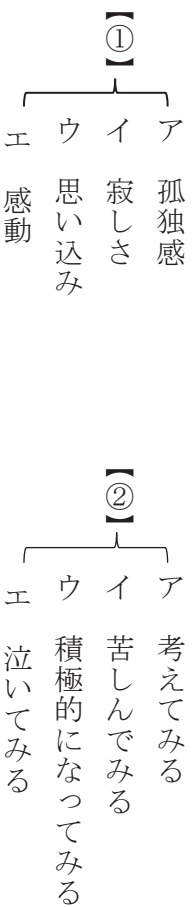
しかし、このような「感動の安売り」環境に浸って育った人たちは、それらが感動的なもので、素晴らしいものだという洗脳を少なからず受けるだろう。思考停止がさらに進み、植えつけられたものがその人にとっての価値観になり、常識にもなる。自分で考えなくなると、それが「普通」で【⑦】なものになり、そうでないものは「異常」だとさえ感じるようになる。

結局、こうして植えつけられた観念からすると、孤独は、排除しなければならぬ異常なものになる。あつてはならないものだから、孤独を感じるだけで、自分を否定することにつながる。その観念がどこから来たのかと考へもしない。⑧そこに危険がある。

(森博嗣『孤独の価値』より)

問1 〓線 a s e のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 本文全体を踏まえて、【①】【②】にあてはまる語として最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。



問3 〓線③「この姿勢」とは、どのような姿勢ですか。文中から漢字四字で抜き出しなさい。

問4 空欄 A C に入る語として最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なぜなら イ むしろ ウ けれども エ たとえば

問5 ——線④「『じゃあ、寂しいとなにか良いことがある?』とありますが、どのような「良いこと」があるのですか。二十字以内で答えなさい。

問6 【⑤】に入る外来語として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アクセント イ コントラスト
- ウ エッセンス エ バックアップ

問7 ——線⑥「号泣」の言葉の意味として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 涙をこらえる イ 大声で泣く
- ウ 静かに涙を流す エ むせび泣く

問8 【⑦】に入る語として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相対的 イ 主体的 ウ 対義的 エ 絶対的

問9 ——線⑧「そこ」の指示内容として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「孤独」は排除すべき異常なものだと思込んでいるのは、仲間の大切さという「感動」を演出したエンタテインメントが溢れ、孤独とは苦しいものだという感覚を植えつけられた結果であるとは考えもしないということ。

イ 「孤独」を感じるだけで自分を否定してしまうのは、仲間や家族などの大切さを誇張して演出するエンタテインメントに対して、人々が条件反射的に安易に涙を流して「感動」してしまうからだとは考えもしないということ。

ウ 「孤独」な自分を肯定できるのは、エンタテインメントが誇張して演出する仲間の大切さを見続けることで、「感動」して涙を流すことのできる人間だけが正しいと思うようになるためだとは考えもしないということ。

エ 「孤独」が常識になってしまふのは、仲間の大切さを過剰に演出したありきたりの「感動」的なエンタテインメントが溢れ、本来人間にとって大事なものである「孤独」とは何かということを考えもしないからだということ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- 1 ひとりの老人の死は、X 一つの図書館の消滅に等しいということわざがある。
- 2 いっどこで読んだのか忘れたが、そのとき、私は若いころの一時期に憑かれたように考えつづけたある種の幻想、もしくは解けない謎の沼のなかに再びもぐり込んでしまった。
- 3 もうじき三十一歳になろうとするころ、私はかなり重症の肺結核で病院の隔離病棟に入院させられるはめとなった。そこには同病の A 老若男女が十二、三人いた。
- 4 他の病棟には、結核患者以外の病人もたくさん入院している。そこでは、死は日常的な出来事だった。(中略)
- 5 私が入院したのは一月だったが、二月半ばのとりわけ寒い日に、結核病棟の長老が死んだ。みんなはその七十五歳の無口な男性を「長老」と呼んでいたのだ。
- 6 入院したのは五年前で、それまでは腕のいい建具師^{たくし}として名が知られていたそうだ。幾つかの賞を受賞し、京都や奈良の有名な神社仏閣の改修工事の際には彼はしばしば指名されたという。
- 7 私は「長老」に見舞い客が訪れたのを見たことはないし、家族らしい人が来たという記憶もない。
- 8 「長老」の遺体が裏門から出て行ってしばらくして、Nさんという五十半ばの婦人が一冊の写真集を持って私の病室にやって来て、これらはみんな「長老」の仕事だと言った。神社や寺、重要文化財に指定された古い建物の、引き戸や開き戸や鴨居^{かもい}の写真の下には製作年月日と「長老」の名があった。
- 9 略歴を読むと、福井県の若狭に生まれ、十三歳で京都建具の名人に弟子入りし、五十歳で独立を許された^{そうだ}。つまり、師匠のもとで三十七年間 B シュギョウをつんだことになる。
- 10 私は、その写真集を貸してもらって、ときおりページをめくり、名人の世界というものに触れたが、そのうち、この人が長いシュギョウによって得たものは、死とともにすべて消滅してしまうのだろうかと考えた。
- 11 建具師の世界だけではない。それら職人の職種は多岐^{たき}にわたるが、学問やスポーツや芸術の分野でも、高度な技量と抜きん出た才能を持つ人がいる。そして、どれもひとつとして努力と C フダンの修練なしでは体現不能なのだ。①それらは、その人がこの世から姿を消すことで無と化するのだろうか。
- 12 継承者に技術や知識を伝えることはできても、それはどこまでも継承者のものになるのであって、伝える人だけがもっていた独自の個性とは別物である。
- 13 「長老」の死によって「長老」だけの才能も技も消えて行ってしまうのか……。
- 14 私は、どうにも納得がいかなかった。特別な学問的知識や天才的な技量以外にも、秀

でたものを持つている人が世の中にはたくさんいる。

15 たいした学歴もなく、金持ちでもないし、どこにでもいそうな平凡なおじさん、おばさんなのに、世間で培われた経験に富んでいる人たちを私は知っている。悩んでいる者や苦勞の渦中かちゆうにいる者を励ますことに関しては名人だという人も私はたくさん知っている。

16 そのような人間性の善き特質も、死とともに ② というのか……。

17 おそらく、肺結核で隔離病棟に臥ふしている状況だったからであろうが、夜中に明かりを消して、ベッドに横たわっていた私は、「いや、消えない。なくなってしまうたりするものか」と思った。その人は、その知識や技量をそっくりそのまま持って、再び生まれてくるのではあるまいか。そうでなければ、天才が世に出現するはずがない。突然変異のように P 鷲じゆが鷹たかを生なんで、並み居るおとなを驚愕きょうがくさせる頭脳や身体能力や精神性を発揮する子どもが出現するのには科学的根拠が必ず隠れているのだ。

18 私はそう確信したが、しからば科学的根拠とは何かと自問すると答えは出そうになかった。遺伝子とは別の次元のことだという気がしたからだ。

19 最近、四十数年前に二、三度逢ったことのある人を思い出した。

20 私が大学生になったところの友人の家に間借りしていた ③ 奇妙な男のことである。

21 友人の家は大阪市阿倍野区の、棟割り長屋や古い木造の二階屋がひしめくところにあつて、戦前の小学校の校舎を三分割したかのような外観だった。友人の父親は、もう何年も前に亡くなっていた。

22 一風変わった間取りで、一階の八畳と六畳の部屋の上に、友人とその妹の部屋があるのだが、中二階にも天井の低い畳敷きの部屋があった。〈中略〉

23 私はよくその家に遊びに行つて泊めてもらったが、ある日、初老の小柄な男が中二階の部屋で石油ストーブひとつを置いて坐すわっていた。

24 おとといから、あの部屋に住むようになったのだと友人は説明してくれたが、一家とどんな関係にあるのかは口にしなかった。

〈この頃に、筆者は、友人が運転免許を持っていなかったことから、彼の母親の仕事を彼に代わつて月に三日間だけ手伝うことになった。仕事が終わるのが夜遅い時間になることもあり、その三日間は友人宅に泊めてもらっていた。〉

25 最初の夜、母親と一緒に家に帰ると、黒ずんで腐りかけているような畳が玄関先に立てかけてあった。男は、天井の低い中二階の部屋の改装を始めたのだ。

26 畳を捨て、床板を剥がし、壁も天井も木の板に変えるらしい。そして、その作業は、男ひとりで五日で終えたが、そこから先が厄介だった。ニス類をいっさい使わず、無垢むくの板を ※ 焼酎しょうちゆうを含ませた布で丹念に磨き始めたのだ。

27 母親に言わせると、朝から晩まで磨いているということだった。

28 私も私の友人も、友人の妹も、二メートルほど下から立ちのぼってくる焼酎の匂いで胸は悪くなるわ、頭は痛くなるわで、まったく眠れなかった。

29 焼酎で無垢の板を磨くと、年月を経ることに味わい豊かな光沢が出て、虫食いも黴も防ぐことができるのだと男は言ったそうだ。そしてその作業は二カ月かかった。

30 私は大学で友人と顔を合わせるたびに、

「まだやってるのか？」

と訊いた。友人は、あの男がタオルに焼酎を含ませて板を磨きつづけている姿には
Q 鬼気迫るものがあつて、見ているとなんだかぞつとしてくると言った。

31 その友人がやっと運転免許証を取得したので、私のアルバイトは三カ月で終わった。男のことは、それきり忘れてしまった。

32 それから二十年余りがたったころ、友人の母親が亡くなったという電話をもらった。

33 あの風変わりな家も、周りの長屋も、一括して不動産業者に売った話が始まり、友人と妹はマンシヨンに引っ越したのだが、家を取り壊す段になって、男が古い家に使われている木材を専門に買いつける業者をつれてきて、中二階の、焼酎で磨き抜かれた板を一枚残らず売った。びっくりするほどの高値で売れたらしい。そしてその代金をすべて友人とその妹に渡して出て行ったという。

34 私は、あの男は、お前たち一家とどんな関係だったのかを初めて訊いてみた。訊きながら、余計なことを口にしてしまったなと思っていた。

35 友人はそれには答えず、

「変人といえば変人やけど、ええ人やったでエ。何があっても怒れへん。いろんなことで助けてくれた。あの板を売ってしまったのを俺はちよつと後悔してるねん。マンシヨンの一部屋の床にも壁にも天井にもあれを張りたかったなア」

と言った。

36 あの中二階からの焼酎の耐えがたい匂いが甦ると、私はアリスティア・マクラウドというカナダ人作家の小説の一節をとりとめもなく思い浮かべる。

——「誰でもみんな、去ってゆくものなんだ」と父が静かに言う。私は父がサンタクロースのことを話しているのだと思っている。「でも、嘆くことはない。」

引用文献 アリスティア・マクラウド著「すべてのものに季節がある」

『冬の犬』所収（中野恵津子訳 新潮社刊）

（宮本輝『いのちの姿』より）

語句注

※焼酎……穀類、サツマイモなどを蒸留して造った、アルコール分の強い酒。

問1 ――線A～Cについて、Aは読み方をひらがなで答えなさい。B・Cは文脈に合う適切な漢字を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- B ーア 修業 イ 修行 ー
C ーア 普段 イ 不 断 ー

問2 枠内**そうだ**と同じ意味・用法の語を含む文を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 久しぶりに会った友人の笑顔に、**元気そうだ**と思い、安心した。
イ 空一面に黒い雲が広がってきて、今にも雨が降り**そうだった**。
ウ 彼女の様子が全く楽しくな**さそうだ**と気づき、心配になった。
エ 新しい担任の先生は、非常に厳しい人だ**そうだ**との噂があった。

問3 ……線P「**鳶**^{とんび}が**鷹**^{たか}を生んで」、Q「鬼気迫るものがあつて」の言葉の意味として

適切なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- P
ア 平凡な親から優れた子が生まれること。
イ 優れた親から平凡な子が生まれること。
ウ 優れた親から優れた子が生まれること。
エ 平凡な親から平凡な子が生まれること。

- Q
ア 非常に危険である様子。
イ 強く人の興味を引く様子。
ウ 異様な恐ろしさがある様子。
エ 気持ち激しく高ぶっている様子。

問4 ――線①について、

- (1) 「それら」の指示内容を本文中より十五字以内で抜き出しなさい。
(2) ①のように自問し続けている筆者の状態を比喻として表現している漢字一字を、第**1**段落～第**3**段落の本文中より抜き出して答えなさい。

問5 空欄**②**に入る言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生まれてくる イ 消えうせる
ウ 改善される エ 継承される

問6 ——線③「奇妙な男」は、筆者の友人の家で、何のために何をしたのですか。説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 板を高値で売り、もうけるために、中二階の部屋の改装用の木の板を、焼酎を含ませた布で丹念に磨いた。

イ 自分を住まわせてくれた友人一家へのお礼をするために、中二階の部屋の改装を、自分一人で行った。

ウ 後に高い価格で売るために、壁も天井もきれいに磨いた木の板に変えるなどして、住んでいた中二階の部屋を改装した。

エ 味わい豊かな光沢を出し、虫食いや傷を防ぐために、焼酎を含ませた布で板を丁寧に磨き、それで中二階の部屋を改装した。

問7 空欄④に入る一文として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア よいことを残してゆくんだからな

イ 自分の暮らす町に帰るだけだからな

ウ 季節がめぐれば彼はまた来るからな

エ 天国で神に迎えられるんだからな

問8 ……線X「一つの図書館の消滅」とはどういうことですか。本文全体を踏まえて四十字以内で説明しなさい。

三 次の文章は、『今昔物語集』の一節です。素晴らしい相撲取りである大井光遠には、おおめのみつとほ少し離れた家に住んでいる、上品でほっそりとした妹がいました。ある時、その妹の家に盗人が入り、妹を人質にとってしまった。以下はそれに続く場面です。読んで、後の問いに答えなさい。

家の人これを見て驚き騒ぎ、光遠が居たる家に走り行きて、「※姫君は質に取られ給ひ

にけり」と告げければ、光遠、騒がずしていはく、「其その女房をば、昔の薩摩氏長ばかり

こそは質に取らめ」と云ひてA居たりければ、告げたる男、怪あやしと思ひて走り返り来て、

座っているのだ

いぶかしさに物のはざまよりBのぞきければ、①九月ばかりの事なれば、女房は薄綿の

不思議に思つて

すき間

衣一つばかりを着、片手しては口覆ひをして、今片手しては男の刀を抜きてさし当てし

片手で

もう片方の手で

肱かひなをやはら捕らへたるやうにて②ゐたり。

ひじ そつと

男、大きな刀の怖ろしげなるを逆手に取りて、腹の方にさしあてて、足を以て後

妹のお腹

足で

よりあぐまで抱きて居たり。此この姫君、右の手して、男の刀抜きてさし当てたる手をや

あぐらをかいて

はらCとらへたるやうにして、左の手にて顔を塞ぎたるを、泣く泣く其の手を以て前に

使つて

※ 矢條の荒造あらづくりしたるが二三十ばかりうち散らされたるを、手まさぐりに節の程を指を以

手探りで竹の節のあたりを指で

て板敷に押しにじりければ、朽木などの柔らかかならむを、押し砕かむ③やうにみしみの
押しこすりつけたところ、

砕け散る

となるを、あさましく見る程に、これを質に取りたる男も、目を付けて D 見る。此の
のを 驚いて 目を剥いて

ぞく男もこれを見て思はく、兄の主、うへ騒ぎ給はざるは、④理なり。

なるほど騒がないのは

語句注

※ 姫君…大井光遠の妹のこと。以下、「女房」も同じ。

※ 矢條…矢の幹やのしののために用意された竹。

問 1 — 線①「九月」の読みとして最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ながつき イ かなづき ウ しわす エ さつき

問 2 — 線②「みたり」、③「やう」を現代仮名遣いに改めなさい。

問 3 — 線④「理なり」の訳として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 事情がある イ 納得である ウ 不可解だ エ 情けない

問 4 — 線 A ～ D の主語として最も適当な組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

ア	A 光遠	B 告げたる男	C 姫君	D 盗人
イ	A 盗人	B 光遠	C 盗人	D 告げたる男
ウ	A 光遠	B 光遠	C 姫君	D 告げたる男
エ	A 盗人	B 告げたる男	C 盗人	D 盗人

問5 この本文と合致しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 妹の家の人は、妹が人質に取られたことに驚いた。
- イ 盗人は大きな刀を持って、妹を羽交い締めにした。
- ウ 妹は人質となったとき、顔を覆って泣いていた。
- エ 妹は盗人から逃れようとして、激しく抵抗した。

問6 「昔の薩摩氏長ばかりこそは質に取らぬ」について、次の各問いに答えなさい。

なお、「薩摩氏長」とは平安時代前期に活躍した歴史的な力士で、相撲が大変上手かった人物のことです。

- (1) 内にある、文法的法則の名称を答えなさい。
- (2) なぜ光遠は「薩摩氏長」を引き合いに出したのですか。その理由を答えなさい。

問7 『今昔物語集』は平安時代後期に成立したといわれている説話集です。平安時代の成立でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア『源氏物語』
- イ『徒然草』
- ウ『枕草子』
- エ『土佐日記』